

より良い鹿角の ためにもっともっと 語り合いたい

株式会社柳澤鉄工所

90年以上続く鉄工所。「鉄と名がつくものなら、どんなふうにも加工できる」と自負する通り、巨大な構造物から小さな部品まで、鉄にまつわるあらゆるものを手がけている。



柳澤さんの趣味は自転車。サイクリング専用の靴を持っていて、休日は100キロ以上走ることも珍しくないとか。

株式会社柳沢建設

大正2年創業の老舗建設会社。土木工事だけでなく、道路の災害復旧や、塗装工事、冬季は除雪も行うなど、地元・鹿角をあらゆる面で支える幅広い事業を展開している。

株式会社柳澤鉄工所
専務取締役

柳澤康隆

対談

08

未来を背負う
後継者たちの決意

株式会社柳沢建設
代表取締役社長

柳沢義生

建築から災害復旧まで
地元になくては
ならない仕事

柳澤●鹿角の青年会議所でよく顔を合わせているけれど、こうして改めて話すとなるとなんだか緊張しますね。柳澤鉄工所にはいろいろな機会でお世話になっていて、関わりがすごく深い会社です。

柳澤●いえいえ、こちらこそ。

改めて自己紹介をすると、もともとは鹿角にあった鉱山の仕事をしていた会社です。今では鉄塔から小さな部品加工まで、鉄にまつわるものならかなり幅広く加工できるまでになりました。

柳澤●それはすごい。社員は若い人が多いと聞きましたが、毎年採用しているんですか？

柳澤●ええ、新卒社員を採用しています。インターンを積極的に受け入れていて、そこで興味を持ってくれる人が多いですね。最新の機械を次々に導入するようにしているので、機械いじりが好きな人にはすごく面白い環境のようです。楽しんで仕事をしてもらえたらうれしいですよ。

柳澤●うちでもインターンの受け入れをしています。短い期間で仕事の魅力を伝えるのはなかなか難しいものですね。やっぱり建設業の醍醐味は、工事が終わって、自分が携わった建造物の完成を見ること。ただ、一つの工事に半年くらいかかるので、インターン期間の1週間では仕事の楽しさが伝わりにくくて…。

柳澤●たしかに、難しいところですね。うちの社員も、モノが出来上がった時と、それが実際の機械の中で使われているのを目にした時が一番うれしいと言っていますから。

指しているんですか？

柳澤●私は鹿角の社長の中で一番の若輩者なので、まだまだ学ばべきことがたくさんあります。けれど、学ばばかりではなく、若いからこそ挑戦の気持ちも忘れたくないですね。失敗を恐れず、他社に先駆けてどんどん新しいことをしていきたいと。柳澤さんは？

柳澤●いずれは自社製品を作りたいんです。今はお客様から依頼を受けて、オーダーメイドで作っているの、こちらから提案ができるようになりたい。自社商品を増やして、分厚いカタログを作るのが夢ですね。

柳澤●いいですね！私たちの世代は、会社だけでなく、鹿角の未来も考えていかないとね。

柳澤●ええ。私は、子どもの教育がとても大切なんじゃないかなと思っています。鹿角から出て行ってしまう人が多いのは、地元のことをあまり知らないからでしょう。小さい頃から地元の企業を見学したり、そこで働く大人たちと接したりしていれば、地元で働くという選択肢がもっと現実的になるのでは？

柳澤●うん、その通りですね。小学生の頃に重機の操縦を体験して、それで建設業を志す人もいるだろうし…。未来の社員のために、子どもたちとの関係も築いていかなくてはいいですね。

柳澤●これからどんなことを目



対談にご登場いただいた全20社のドキュメンタリー映像を公開しています。